

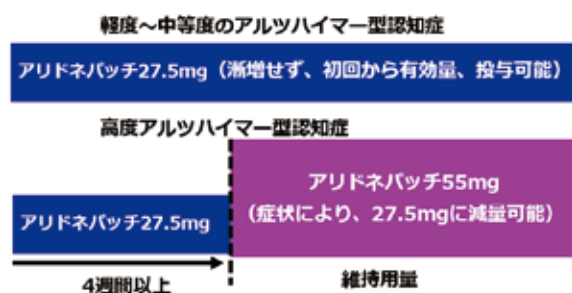
経皮吸収型コリンエステラーゼ阻害薬（アリドネパッチ）

2023年4月、アルツハイマー型認知症（AD）治療薬の経皮吸収型製剤、アリドネパッチ（一般名：ドネペジル）が発売されました。軽度及び中等度 AD に適応のある貼付剤として、リバスタッチ／イクセロンパッチ（一般名：リバスタチグミン）がありますが、高度 AD に対しては、初の貼付剤になります。なお、経口薬（一般名：ドネペジル塩酸塩）が持つ「レビー小体型認知症」の適応はありません。経口薬と貼付薬で有効成分が異なるのは、ドネペジル塩酸塩の経皮吸収性が劣るため、体内の活性本体であるドネペジルに変更したためです。

アリドネパッチは、服薬困難や寝たきりの患者にも有用で、食事や併用薬との服用タイミングを考慮するなどの制約がありません。また、投与状況を視認できるので、介護者による服薬管理が容易になります。経口薬は、コリン作動性の胃腸障害を軽減するため、有効用量ではない 3mg から開始しますが、貼付薬は血中薬物濃度の上昇が緩やかなため、軽度及び中等度 AD では、ローディングドーズを必要とせず、経口 5mg に相当する 27.5mg から開始できます。高度 AD の場合には、27.5mg で 4 週間以上経過後に、55mg（経口 10mg に相当）に漸増します。下痢、食欲不振などの消化器症状は 1～3% 未満と、経口薬と同程度に発現します。製剤は、27.5mg（8.1×8.1cm）、55mg（8.9×13.4cm）で、鎮痛消炎剤のモーラステープ（7×10cm）、同 L（10×14cm）よりやや小さめのサイズです。適用部位の皮膚症状は、そう痒感（24.9%）、紅斑（24.3%）、接触皮膚炎（12.6%）と高頻度に発現します。連日の貼付・除去により皮膚角質層が剥離し、血中濃度が増加するおそれがあります。このため貼付部位を毎回変更し、同一部位への貼付は、7 日以上間隔をあけます。光線過敏症の防止のため、衣服で隠れる部位を選び、剥がした後も貼付部位への直射日光を 3 週間は避けます。他のコリンエステラーゼ阻害薬（ドネペジル塩酸塩、リバスタチグミン、ガランタミン）とは併用できません。また、AD による影響や意識障害、めまい、眠気等などの副作用があるので、自動車の運転等はしないよう指導します。

商品名	アリドネパッチ 27.5mg、55mg
一般名	ドネペジル
会社名	帝國製薬株式会社／興和株式会社
効能・効果	アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制
用法・用量	通常、軽度～中等度のアルツハイマー型認知症患者にはドネペジルとして、1日1回 27.5mg を貼付する。高度のアルツハイマー型認知症患者にはドネペジルとして、27.5mg で4週間以上経過後、55mg に増量する。なお、症状により1日1回 27.5mg に減量できる
貼付部位	本剤は背部、上腕部、胸部のいずれかの正常で健康な皮膚に貼付し、24時間毎に貼り替える
相互作用	主に薬物代謝酵素 CYP3A4 及び一部 CYP2D6 で代謝され、コリン作用性薬などとの併用注意がある
薬剤貼付後の注意	貼付 24 時間後も成分が残存しているため、接着面を内側にして折りたたみ廃棄する。製剤を扱った後は、薬剤を除去するため、手を洗うこと。手洗い前に目に触れないこと
副作用	適用部位そう痒感、適用部位紅斑、接触皮膚炎、下痢、食欲不振、吐き気、嘔吐など
薬価	27.5mg1 枚 289.80 円、55mg1 枚 441.40 円

使用に際しては、必ず添付文書をお読み下さい。



アルツハイマー型認知症の治療薬

商品名（一般名）	分類	MCI	軽度	中等度	高度	DLB	剤形（貼付剤の面積）
アリセプト（ドネペジル塩酸塩）	AChE 阻害薬		○	○	○	○	D錠、錠、ドライシロップ、内服ゼリー
アリドネ（ドネペジル）			○	○	○		パッチ剤（63cm ² 、115cm ² ）
レミニール（ガランタミン臭化水素酸塩）			○	○			錠、OD錠、内服液
リバスタッチ/イクセロン（リバスタチグミン）			○	○			パッチ剤（2.5cm ² 、5cm ² 、7.5cm ² 、10cm ² ）
メマリー（メマンチン塩酸塩）	NMDA 受容体 阻害薬			○	○		錠、OD錠、ドライシロップ
レケンビ〔レカネマブ（遺伝子組換え）〕	抗アミロイドβ抗体薬	○	○				点滴静注

MCI（軽度認知障害） DLB（レビー小体型認知症）